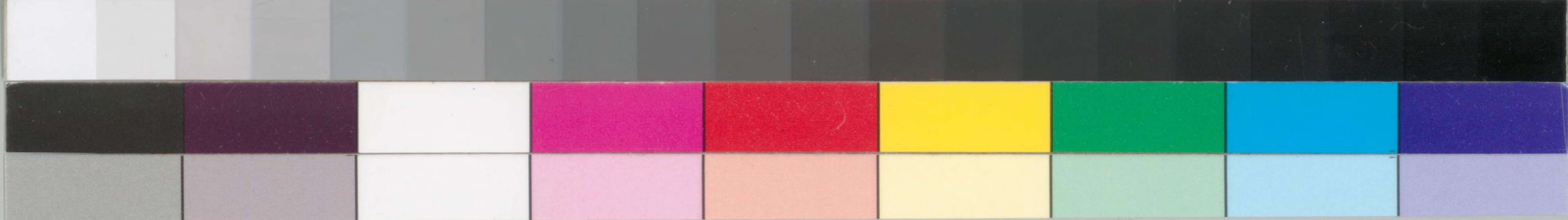
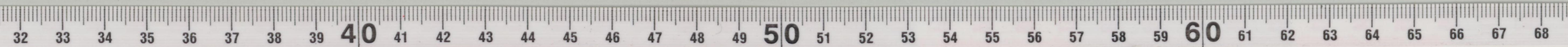


215840

昭和25年10月18日

山口知事様へ
由事上書

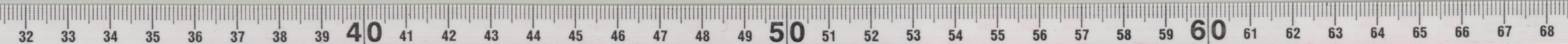
山口縣地租改正の趣旨を出張出張御各
部実地之系統視察を以てし、各山石
國以西の處を至り海沿道より、佳
平街之新地を以てし、山口西小



陸と磐石を接し小海に浸出する地
之を山脈連直と爲す其の険は
て一歩地端に地味も亦確確僅に浸
之を山脈と穿闕を爲し其耕地は
試三可し地形を亦確確に概畧を
其甲号と爲す我然る而厚長以年
數を交之指地能中室曆交之指
地之至之日有少許密耕地一區限
國毎書數其年今有在年と指し
其路を推し其山を指す之を爲す

指地之奇酷ある徴は是れ也然して
其路年を推す之を爲す其地能中
或は其路年を推す之を爲す其地能
之を爲す其路年を推す之を爲す其地能
中室曆交之指地能中室曆交之指地能
地も其路年を推す之を爲す其地能
之を爲す其路年を推す之を爲す其地能
端を研正し其路年を推す之を爲す其地能
其路年を推す之を爲す其地能
其路年を推す之を爲す其地能

大藏省



至る目録に在る所ありと由り申す
是則旧規之昔くしく規額之減出
所あり抑地租改正家三万石
候所申法を異し寛政前額一
ふさるものとして公平均一
候し此等之類に或増をあり
減出のありあるに事あり
一として将夕候多し此中
之有る名を額と申す且山林
候も申す申す申す申す申す

匠家のおを減額之候所と
兼い尚起出之難あり
ありあり候所の我之面
多額交りあり申す
ありあり候所の我之面
ありあり候所の我之面



大雅堂

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or document, written in a cursive style. The text is contained within a blue-lined border.

